

9月4日(木)(午後(II) A会場)

企画セッション：多重比較法研究の最近の動向

オーガナイザー 明星大・理工 広津千尋
 中央大・理工 鎌倉稔成
 座長 明星大・理工 広津千尋
 中央大・理工 鎌倉稔成

A-1 多重比較研究の最近の動向と様々な応用

明星大・理工 広津千尋*

多重比較法,あるいは多重決定方式は臨床試験解析,遺伝子データ解析,変化点解析など様々な応用を持ち,また応用分野にとって固有の必要性から方法論の方も進歩している.本稿では,最近の進展を概観するとともに,遺伝子の関連解析やプロファイル解析への交互作用多重比較法の応用について述べる.

A-2 脳画像の統計的データ解析における多重比較の問題

中央大・理工 鎌倉稔成*
 中央大・理工・院 寺西友弘

fMRI画像を利用した脳科学の分野において,その分析方法に統計的方法がインテンシブに利用されている.特に,線形モデルのフレームワークでの分析方法はこの分野でのデファクト・スタンダードとなりつつある.しかしながら,多重比較の問題は解決されているわけではない.ランダムフィールド,パーミュテーションテストを含む多重比較への応用の方法とその適用にあたっての問題点について報告を総合的に行った.

A-3 多重比較における統計計算について

農環技研 三輪哲久*

多重比較法のなかには,検出力が高く有効な方法であるにもかかわらず,確率計算が困難であるために適用されてこなかったものが多く存在する.近年,再帰的積分を中心とする有効な確率計算法が開発され,これらの多重比較法の適用が可能となってきた.本講演では,多重比較法の適用における統計計算上の問題点を概観するとともに,最近の成果を紹介する.

A-4 Dunnettの方法に基づく平均ベクトルの多重比較法について

九州東海大・工 今田恒久*
 東海大・理 道家暎幸

反応が多変量正規分布に従う複数個の処置に対し,固定した1つの処置が他の処置のいずれより優れているかを判定するための多重比較法をDunnett(1955)のシングルステップ方法に基づいて構築する.ここで対比較においてはefficient scoreに基づく検定方式を用いる.構築した検定方式に対し,指定した有意水準を満たす棄却限界値を決定する.

9月4日(木)(午後(II) B会場)

企画セッション：QOL測定尺度研究部会の最終討論

オーガナイザー

聖学院大・人文 丸山久美子
 座長 聖学院大・人文 丸山久美子

B-1 長崎原爆被爆者のQOL

長崎大・医 柴田義貞*
 長崎大・医 三根真理子
 長崎大・医 太田保之

原爆被爆者のQOL評価を目的に,長崎市が被爆者健康手帳保持者5,000人を対象に1997年に実施した訪問調査の回答者3,831人のうち,爆心地から2.5km以内で被爆した近距離被爆者806人と4km以遠で被爆した1,047人について,主観的健康状態,ADL,手段的ADL,生き甲斐・生活のほり,居住環境,GHQ-30,被爆体験想起,健康状態と被爆の関連を比較した.最後の2項目を除き両群に有意差は認められず,被爆より個々人の社会経済生活などを反映した結果となった.

B-2 がん患者に対するFACTSp日本語版の信頼性・妥当性の検討

東京医科歯科大 野口海*
 京大・医 森田智視

B-3 WHOQOLスピリチュアリティ研究調査結果—日本人のスピリチュアリティ—

東京理大 田崎美弥子*

B-4 スピリチュアリティに関するQOL測定尺度の統計的諸問題

富山医科薬科大 折笠秀樹*

9月4日(木)(午後(II) C会場)

オーガナイザー 東北大・経済 照井伸彦
 座長 名大・経済 和合肇